

平成 28 年度野々市市創生総合戦略推進会議
会議録

1 日 時

平成 29 年 2 月 22 日（水） 午前 10 時～午前 11 時 50 分

2 場 所

野々市市役所 2 階 201 会議室

3 次 第

1 開会

2 委嘱状交付

3 報告

(1) 野々市市創生総合戦略推進会議設置要綱の一部を改正する要綱について

(2) ののいち創生総合戦略の概要と人口等の推計について

(3) ののいち創生総合戦略の推進状況について

4 議事

(1) 平成 27 年度地方創生関係交付金を活用した事業の評価について

5 委員からのご意見等

6 閉会

4 出席委員

石川 憲一 会長

榎本 俊樹 副会長

飯田 秀昭 委員

小川 剛 委員

絹川 博 委員

澤村 昭子 委員

千田 利明 委員

杖村 修司 委員（代理出席 久志野 雅義 氏）

中野 俊明 委員

西村 一正 委員

藤田 雅顯 委員

松本 芳孝 委員

5 欠席委員

なし

午前 10 時 00 分開会

事務局： 皆様大変お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただ今から、平成 28 年度野々市市創生総合戦略推進会議を開催させていただきます。本日は、皆様方大変お忙しいところ、ご出席くださいます、誠にありがとうございます。

早速ですが、この会議から新しく委員にご就任された方々がいらっしゃいますので、委嘱状の交付に移らせていただきます。この推進会議の委員につきまして、新たに報道機関から推薦いただいた方を含めております。推進会議の設置に関する要綱を見直したことから、今回から新たに 2 名の方に委員に就任いただいております。また、ご所属の機関の人事異動等によりまして、2 名の方に今回からご参加をいただいております。ただいまから、市長が今回から会議に参加していただく皆様方の席にお伺いし、委嘱状をお渡しいたします。お名前をお呼びいたしますので、その際には、恐縮でございますが、その場でご起立いただきまして、委嘱状をお受け取りいただきたく思います。

【委嘱状交付】

栗市長： 改めまして皆様、おはようございます。本日は、ご多用のところを野々市市創生総合戦略推進会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、新しく委員にご就任されました方々につきましては、創生総合戦略推進会議委員への就任を快くご承引いただきましたことに、重ねてお礼を申し上げます。御承知のとおり、本市の人口は、近年、増加傾向にあります。出生率も前回の国勢調査ベースの正確な数字はまだ発表されておられません。全国的平均に比べて高いと言われております。しかし、この現状を俯瞰しているだけではなく、「ののいち創生総合戦略」で掲げました、選ばれるまちをめざして、魅力的なまちづくりを進めていく必要があります。

皆様とともに作りあげた「ののいち創生総合戦略」を道標として、これからも幅広い分野の皆様と力を合わせて、本市に新たな価値を創造するという思いの中で、すべての市民が活躍することでこそ、野々市の明るい将来があると思っております。委員の皆様からは、それぞれのお立場からのご意見を賜りまして、これまでも増して、本市の地方創生を進めてまいりたいと思っておりますので、重ねてお願いを申し上げます、開会にあたってのご挨拶とさせて

いただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【野々市市創生総合戦略推進会議委員の紹介】

【野々市市職員の紹介】

事務局： それでは、野々市市創生総合戦略推進会議設置要綱 第6条第1項の規定によりまして、この会議は、会長が議長となることと定めておりますので、この後の議事進行につきましては、石川会長にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

石川会長： 改めまして、金沢工業大学の石川でございます。

昨年度に引き続き、野々市市創生総合戦略推進会議の会長を務めさせていただきます。委員の皆様方のご協力をいただきながら、会議を進めてまいりたいと思っております。

昨年度は「産学官民金労」の各界代表の参画のもと、「ののいち創生長期ビジョン」と、「ののいち創生総合戦略」の二つの策定に向け、幅広い分野の皆様のご見識をいただきながら、この創生総合戦略推進会議におきまして、野々市市の創生について検討をいたしてまいりました。

今回は、「ののいち創生長期ビジョン」と「ののいち創生総合戦略」の策定後の初めての会議になります。平成28年度にいかなる事業が行われたのか、あるいは進捗状況はどうか、このあたりについてともに確認しまして、意見を出し合えればと考えております。

また今回の会議から、言論界を代表いたしまして、北國新聞社並びに中日新聞北陸本社の方々にご参画をいただいております。ぜひとも言論界の立場からも野々市市の創生に向けたご意見をいただきたいと思いますと思っております。

私ども金沢工業大学におきましては、「学」の立場から、教職員をはじめ学生ともども、野々市市の創生に積極的にお手伝いをさせていただきたいと思っております。

この会議が、野々市市の創生に向けた様々なご意見が交わされる場となるよう、どうぞお願い申し上げます。それでは、事務局より説明をお願いします。

事務局： 報告1番「野々市市創生総合戦略推進会議設置要綱の一部を改正する要綱について」説明

資料1 野々市市創生総合戦略推進会議設置要綱

【説明要旨】

○国の通知により、地方創生を実行する上で、外部有識者で形成する会議の委員に、言論界の参加が必須となった。これにより、野々市市創生総合戦略推進会議設置要綱を一部改正し、「報道機関から推薦された者」の部分を追加した。

石川会長： ありがとうございます。ただ今のご報告につきまして、ご意見やご質問はございますか。

(意見・質問なし)

それでは御承認されたとします。続いて報告2番に移ります。

事務局： 報告2番「ののいち創生総合戦略の概要と人口等の推計について」説明

資料2-1 ののいち創生総合戦略—選ばれる“まち”をめざして—の概要

資料2-2 野々市市の人口等の推移

【説明要旨】

○「ののいち創生総合戦略」は、「ののいち創生長期ビジョン」に示す方向性に基づき、目標や施策の基本的な方向を示したもの。「しごとを創る」と「ひとの流れを創る」の二つの戦略が連携することで相乗効果が生まれ、「“まち”と“ひと”とのつながりを創る」という戦略が「しごと」と「ひと」が相乗効果を生み出すための下支えとなる。

○平成27年国勢調査人口等基本集計結果を見ると、着実に人口は増加している。

○出生、死亡からなる自然動態はやや横ばいだが、転入、転出からなる社会動態は、平成23年をピークに人口の社会増の割合が減少しており、平成28年においては、社会減となっている。これは土地区画整理事業の進捗状況が要因と考えられる。

○国が示す野々市市の合計特殊出生率は、平成20年～平成24年人口動態保健所・市区町村別統計により公表されており全国より高い「1.69」。

○平成 27 年国勢調査と平成 27 年人口動態調査の結果から、合計特殊出生率を独自に推計をしたところ、算出した結果は、「1.9」。平成 31 年 3 月頃に国から公表される合計特殊出生率は 1.69 より上がると推測している。

石川会長： ただ今の、ご説明に対して、ご意見やご質問などはございませんか。

平成 28 年には、自然動態は変わりませんが、社会動態がマイナス 175 人ですね。こここのところを V 字回復できるような施策が必要かと思います。

飯田委員： 平成 28 年の社会動態がマイナスになっております。区画整理事業が終わった時点で、社会動態は変わらないのではないのでしょうか。

事務局： 今ほどの、飯田委員の御指摘のとおりかと思えます。通常の区画整理事業が一旦終わりますと、そこで一旦、動きが無くなるという傾向になるかと思えます。平成 28 年度にマイナスが出ておりますのは、北陸新幹線の影響が一つと、白山市に大きな工場がいくつかできたことから、そちらにお勤めになるために、異動している傾向が見られることが一つと考えております。

西村委員： 人口が増えるのはわかるのですが、増える年齢層はわかりますか。

事務局： 20 代半ばから 40 代半ばの若い年齢層の方が活発に異動しておられるようです。

石川会長： それでは、次の報告に移ります。

報告 3 番、ののいち創生総合戦略の推進状況について、事務局より説明をお願いします。

事務局： 報告 3 番「ののいち創生総合戦略の推進状況について」説明

資料 3 ののいち創生総合戦略 平成 28 年度の主要な取り組み

【説明要旨】

○本来ならば、重要業績評価指標（KPI）や数値目標の進捗状況、評価を踏るところだが、事業の実施が平成 28 年度からであり、1 年を経過していないことから、今回の会議においては、主な取り組みを報告する。

「しごとを創る」の主な取り組み

- 「創業支援ネットワークの結成」・・・平成28年6月に「野々市市創業支援ネットワーク」を結成。
- 「野々市市創業支援事業計画の策定・認定」・・・野々市市創業支援事業計画を策定し、平成28年8月に国の認定を受けた。計画では、野々市市商工会において、ワンストップ相談窓口の設置や創業塾の開催を行う。
- 「創業塾の開催」・・・平成28年11月から12月にかけて、創業支援事業計画に基づき、野々市市商工会の主催で、創業に係る基礎知識を学ぶ創業塾を全4日間の日程で開催。学生9名を含む17名が受講した。
- 「企業立地の促進に関する条例の制定」・・・人口規模に左右されない強固な産業構造への転換を図るとともに次代を担う産業を創出する。

「ひとの流れを創る」の主な取り組み

- 「ワークライフバランスの実現」・・・ワークライフバランスをテーマとした映画の無料上映会を開催し、啓発活動を実施する。
- 「未満児保育実施事業」・・・未満児専門の保育園として、休園していた中央保育園を再開した。
- 「生活支援サービス基盤整備事業」・・・地域の見つかった課題について、地域の力で解決できるよう、地域支え合いマップの作成により、市民とともに考える取り組みを行っている。

「“まち”と“ひと”のつながりを創る」の主な取り組み

- 「ののいち絆プロジェクト」・・・富奥地区の市民・金沢工業大学の学生・石川県立大学の学生・翠星高校・生活学校によるイベント『TOMISHE(トミシェ)』を開催し、野菜や加工品販売、クラフト体験などを実施した。
- 「土地区画整理事業」・・・西部中央土地区画整理事業は健康防災拠点として、中林土地区画整理事業は学術・新産業創造拠点として事業を行っている。

石川会長： ありがとうございます。ただいまの説明に、ご意見やご質問などはございませんか。

久志野氏： ワークライフバランスについてですが、私どもは働き方改革について、取り組んでいるところでございます。施策の方を拝見いたしますと、どちらかとい

うと個人に対しての施策は充実しているようですが、大事なものは企業だと思えます。企業に働き方改革、例えば最近ですとプレミアムフライデーなどがもうすぐ開催されますが、そういったことを促進させるような、施策を考えていただけたらと思います。

事務局：ありがとうございます。おっしゃるとおり今働き方改革について強く言われていることは私どもも承知しております。組織的な働き方改革ということでございますけれども、これもやはり行政としてできることは啓発活動になるかと思っております。行政が率先してそのような取り組みを行うことで、市内の企業の方々に広まっていくことを期待したいと思えます。

藤田委員：ただ今、ワークライフバランスについてのお話がありましたが、現実に働く側からすると、そういう環境下で働かせてもらっていないということかと思えます。

野々市市を見ておきますと、サービス業関係が多く、随時、人が異動してしまいます。野々市市周辺は、相当に工業を誘致されておりますが、大手企業の人事異動により人が沢山動いていきます。

野々市駅周辺も含めると、野代地区、これは御経塚と反対側ですが、住宅メーカーがアパートやマンションを相続で建てられる地主さんを誘致しています。しかし御経塚の区画整理については街並み制限があり、住宅の開発はされません。そういうバランスの悪い建て方となっています。野々市市内のアパートに家を建てるまで住んで、そこからよそへ移動する人が多いと思えます。

事務局：ありがとうございます。なかなか難しい問題です。人口形態としましては、確かにおっしゃるとおり、北西部を中心とした郷地区はここ5年ほど急激に人口が伸びています。逆に本町地区などは段々と人口が減っています。市としては、中央地区の整備を行っており、元々の野々市の中心であった部分を大切にしたいと思っております。

行政がしなければならないことは、一生懸命に行いますが、民間の力をうまく引き出すのも、行政かと思っております。あとは、市民協働と言っておりますように、市民の方や町内会のお力も借りながら、そして何より企業の方のお力も借りながら、行政は地方創生を行っていかないといけないと思っております。

藤田委員： 市が色々な計画や活動されようとすることをサポートしてくださっているのはよく承知の上で御提案したのですが、今ちょうど世代交代の時期で、60代から70代の人たちがどれだけ働きやすくなるかの環境のサポートをする時期がきたのかと思います。

次の世代である若い世代は、仕事が大変忙しく、家庭を見る時間がない。更に下の世代になると、今度は生活に対する考え方も違ってきております。小学校のPTAなどもそのような事情で、問題が起きつつあります。これは市民として感じることです。大企業さんが色々いてくださって、とても立派なのだけけれど、生活する者からすれば振り回されている。もう少し余裕のある働き方ができれば、若い人も子どもをつくりやすかったり楽しかったりするのではないのかなと思います。新築で住居を建てるけれども、夜遅くまで電気が点いていない家が並んでおります。

石川会長： 電気が点いていないというのは、入居者がいないということですか。

藤田委員： 新築のローンを組んで家を建てるのですが、寝に帰るだけということですか。

石川会長： 今のお話の中で、世代交代とのお話がありましたが、団塊の世代は皆、引退されておりますが、最近皆様若いというか元気です。ですから、そういうシニア世代を活用する、そういう施策を市に期待したいと思います。

久志野氏： 今ほど、働いている世代が忙しいというお話がありました。野々市市は別かもしれませんが、全国的な人口減少をしていく中で、同じような働き方をしている、更に人口が減少していくことは間違いないと思います。

我々金融機関は、生産性向上、あるいは今までと働き方を変えていくITの技術を提案していきながら、少しでもワークライフバランスに貢献できるように頑張っていきたいと思います。

中野委員： 企業立地の促進に関する条例の制定に関しまして、野々市市は都市型産業と申しますか、知識を生かした産業の誘致をめざしていて素晴らしいというか、効果が表れれば更に若い方が野々市市で生活し働くのではないかと大いに期待したいと思っております。

もう一つ、石川中央都市圏連携推進事業について、中身を十分承知をしてお

りませんが、金沢市を中心とした近隣の生活圏は全国的に住みやすい土地柄との評価を受けているわけで、各市が更に連携を進めることで、企業誘致などももっとスムーズになるのかなと思っております。

事務局： ありがとうございます。石川中央都市圏連携推進事業は、金沢市を中心に本市も含んだ4市2町という大きな枠組みで、人口のダム機能を果たしているといえますか、人口の異動がないように取り組んでおります。今年度に関しましては、特に小児救急について、金沢市大手町にあった病院を4市2町が使えるようにして、駅西の方に整備される予定です。今後も、金沢市を中心に協議しながら、連携を進めていきたいと思っております。

石川会長： それでは、本日の議事に入ります。平成27年度地方創生関係交付金を活用した事業の評価について、事務局から説明をお願いします。最後に委員の皆様から評価について承認を頂きたいと思っております。それではお願いします。

事務局： 議事「平成27年度地方創生関係交付金を活用した事業の評価について」の説明

資料4-1 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）の評価について

資料4-2 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）評価一覧表

資料4-3 平成26年度 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）

【説明要旨】

- （仮称）野々市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定事業については、「のいち創生創業戦略」の策定のものだが、評価の対象となっていないため、4事業に対し、6つの評価がある。
- 「子ども・子育て支援事業」・・・保育園でのアレルギー対象児童の徹底管理を行うこと、延長保育の充実を図る登降園の管理を行うことで、保護者の安定した雇用の促進につなげるとともに、少子化対策に寄与するもの。
この事業に対しての重要業績評価指標（KPI）は3件ある。

- ・「アレルギー児童の受入対応件数（目標 100%）」に対し、実績値は、「平成 27 年度 100%」。アレルギー児の保育園の受入れが 100%できている。
 - ・「延長保育利用者の増加（目標 10%）」に対して、実績値は「平成 27 年度 8.7%増加」。電子マネーの導入により、保護者にとって延長保育料を精算しやすい環境が整ったことで、利便性が高められた。
 - ・「待機児童 0 人」に対し、実績値は「平成 27 年度 0 人」。受入れの児童数が増加するなかでも、保育施設の充実により待機児童 0 人を継続。
- 「子ども健康管理事業」・・・事業の内容は、予防接種費用の助成・管理で、安心して子どもを産み育てられるまちづくりをめざしたもの。
- 重要業績評価指標（K P I）の「申請率 2%向上」に対し、実績値は「平成 27 年度 0.8%向上」。申請件数を対象者で除して計算した申請率は 0.8%の増加だが、申請件数の伸び率で見ると、2%の増加。
- 「外国観光客誘客事業」・・・事業内容は、市内に点在する国・市指定文化財をはじめ、地域の歴史遺産などの情報を外国人観光客に提供するため、英語など、多言語表記サイトを作成したもの。
- 重要業績評価指標（K P I）の「観光案内サイトアクセス数 10%向上」に対し、実績値は「平成 27 年度 4.5%向上」。観光案内サイト（野々市市デジタル資料館）に外国語コンテンツを追加したのが平成 28 年 4 月で、実績値の報告が 6 月であったことから、2 か月のアクセス数から年間のアクセス数を推計して求めた実績値は 4.5%向上となった。ただし今年 2 月の時点、これは 1 月までのアクセス数の実績でアクセス数 3,333 件と、外国語コンテンツを追加する前である前年度との比率は 17.3%増であり、アクセス数の向上が見られる。
- 「子ども医療費・ひとり親家庭等医療費助成制度」・・・「償還払い方式」に変えて「現物給付自動償還払い併用方式」を実施した。医療機関で一部負担金を支払う必要がなくなり受診しやすい環境を整備した。
- 重要業績評価指標（K P I）の「受診件数前年度同月比 10%向上」に対し、実績値は「平成 27 年度 68.1%向上」。

石川 会長： ただ今のご説明に対しまして、ご意見やご質問などはございませんか。

澤村 委員： 質問といたしますかお願いですが、保育園の待機児童はずっと 0 を維持していると聞いております。ただし、親御さんが第一に希望する保育園に本当に入れ

ているかは疑問ではないかと思えます。これからは、働く場所や兄弟の関係で希望するところへ入れるようにしていただきたいと思えます。

それから、ファミリーサポートなどの事業もあるのですが、お母さんたちが突然の都合で子どもを預けなければならないときや時間外などはそういう事業が手薄なのではと思えます。あるところの意見を聞きますと、子育てに優しいまちだったかと聞くと、その辺りは野々市市は不満もあったと何かの資料で見た気がします。

最後に医療費ですが、県内では無料の自治体があると思えます。野々市市は子どもも多くて負担も多く大変だと思えますがめざしていただきたい。以上です。

事務局： ありがとうございます。待機児童につきましては、昨年4月から中央保育園を未満児専用保育園として開設いたしました。市内で約2,100人の児童の受け付けをしております、そのうち第一希望に入れなかったのは87人おいでになりますが、第2、第3希望には入れております。どちらの保育園でも市内は近いですし、原則保護者の方の送り迎えが必要ですので、だいたい了解して頂いているところです。

兄弟は同一の保育園に基本的に入園しておりますし違うことはないかと思えます。子ども医療費の一部負担金については、大きな課題でこれからも検討していきたいと思っております。

石川会長： 時間外など突然預けたい場合は中央保育園がその役割を担っているという認識でよろしいでしょうか？

事務局： 一時保育については、子育て支援センターなどでも行っておりますし、各種のサポートセンターでも受け付けております。

松本委員： そもそも目標数値はどのように設定されたのでしょうか。

事務局： 重要業績評価指標（KPI）についてはそれぞれであります、例えばアレルギー児童の受入対応件数であれば最初から100%を達成しないと意味がないといえますか、1人であってもアレルギーが発生してしまったというわけにはいきません。他の目標値につきましては、人口から見まして、通常達成できる

ものから少し高めを推測して設定しております。

藤田委員： 現物支給を受けながらその領収書を持って帰り、医療費控除を受けている人がいると聞いたことがあります。周辺市町は全くの現物支給なので、できないという話も聞きました。その辺りはいかがでしょうか。

事務局： 医療費控除か現物支給かどちらかの選択となります。今は、現物支給になったものですから、基本的に医療費控除は受けられないという認識です。ただし自己負担分は医療費控除の対象となると思います。

久志野氏： 先ほど目標値のお話が出たのですが、この評価をする際には目標値もさることながら、他の自治体との比較がないと評価がしにくいのではないかと思います。例えば全国平均と比べるとどうか、石川県内でいうとどうかなどといった評価の方が、他の委員さんもわかりやすいのではと思いました。

また、評価につきましては、できればせっかくこういった会議ですので、逆にうまくいかなかったところ、それに対しての問題は何か、良くするための課題は何かということも話し合えればなと考えます。

事務局： ありがとうございます。承知いたしました。まず他自治体との比較の方がわかりやすい、というご意見に対しましては、次年度以降、可能な限りわかりやすい資料づくりに努めたいと思います。

今はまだ完全に事業が終わっていないものがほとんどです。来年度には、評価ができるようになりますので、うまくいっていないものも見えてくると思います。その際には、御意見をいただければと思います。

藤田委員： 他市町村の比較ですが、市民感覚で言いますと働き口が近くにあれば別ですが、金沢などで働く場合、生活コストに差が出てくるかと思えます。野々市市は金沢周辺からも近く、市民は何らかの我慢をしても野々市市に住む。野々市市がもしだめになるときは、周辺部もだめになっているときだと思えます。

こんなところに生活しにくい、という思いが出てくるときには、野々市市民は出て行ってしまいます。その辺りを常々敏感に感じていないと、野々市市はよそからくじられると言いますか。正直そういう町柄だと思えます。

事務局： ご指摘もあろうところかと思えます。この野々市の創生に関する取り組みに関しまして、我々が一番重視しておりますのはやはり産業づくり、仕事づくりだと思っております。野々市市は狭いですし、大規模の工場を誘致しようと思っても用地がなかなかない。今後は金沢工業大学や石川県立大学や i-B I R Dを活かした産業を誘致していくのが、大切ではないかと思えます。産業を創るのは長い時間がかかると思っておりますので、5年、10年のスパンで進めてまいりたいと思えます。

小川委員： 2点ほど質問があるのですが、電子マネーの導入とありますが、電子マネーとは具体的にどういったものが導入されているのでしょうか。

2点目は、子ども医療費の件ですが、受診者が何人増えたかわかりますでしょうか。

事務局： まず電子マネーですけれども Edy などいくつか導入しております。

子ども医療費の件数ですが、なかなか件数の判断が難しく、今回は金額での評価となりました。

小川委員： 電子マネーですが、例えば4月以降から使えるJRの交通系の電子マネーや、スーパーの電子マネーなど様々な種類があると思えますが、それらに全て対応できるようにすることはできるのでしょうか。

事務局： 数種類の電子マネーには対応しているという状況でございます。

そして先ほどの、子ども医療費の件数ですが、平成27年度で4万件あまりとなっております。

飯田委員： 文章の説明をお願いしたいのですが、5番の子ども医療費のところを読んでいくと、「子育て世代である若年層の市外流出や定住」というところがどういうつながりなのかなと思ひまして。出ていくのと定住は逆ではないかと思ひます。

事務局： ご指摘のとおり、正反対のことを言っております。申し訳ございません。市外流出、転出を防いでいきたいというのと、野々市外に流出せずに定住してほしいという二つの同じ意味のことを伝えたかったということでもあります。言葉

の書き方が悪く、大変失礼いたしました。

藤田委員： 教えてほしいのですが、子ども健康管理事業の予防接種費用についてインフルエンザは予防接種に含まれますか？

事務局： インフルエンザは含まれます。その他にも8種類ほどございまして、A型B型肝炎や、おたふくなども対象です。

藤田委員： 今年も早いうちから富奥地区は150人ほどインフルエンザを発症しています。できれば、その辺りを考えてあげないと校長先生が大変かと思います。何とか、面倒を見てあげてください。

石川会長： インフルエンザは対象ということでしたが。

藤田委員： 教えてあげないといけない。知らないと思います。

飯田委員： 先ほどから色々お話に出ています他市町との比較の話で、よくテレビで隣のまちのあれがいいこれがいいってよく観るんです。野々市市でも一生懸命やっていますけれどもそれを皆さんがなかなか理解する機会がないというか、あまり見ないと思います。もっと外に対して発信していけばいいのではないかと思います。

先ほどおっしゃるように、遠いところから金沢へ通うのは大変だけど、野々市だったら近いとか、野々市は買い物に便利とかそういう総合的な面で見るとも大事です。野々市市はアピールする力が弱い気がするので、そこにもっとお金を使っていけばいいと思います。

事務局： ありがとうございます。おっしゃるとおりかと思います。少なくとも住みよいまちというような評価もいただいておりますので、地方創生だけでなくまちづくり全般に関わることもかもしれませんが、戦略的な広報としていけるように、広報等の担当にも伝えておきたいと思います。

藤田委員： 今、市内では高齢者が増えております。この空き家の対応を考えてほしいと思います。野々市市は見えないところで高齢化が進んでおります。僕らは日々

そういうことに敏感に対応しております。空いた地面を放置されると地域として非常に困ります。草が生えきったり、夏はひどい状況になります。ぜひ知恵をしばっていただけるとありがたいと思います。

事務局： 空き家対策は全国的に問題となっています。石川県でも問題となっております、この件については石川県全体で空き家対策協議会をつくりまして、県が中心となって空き家対策を行っております。野々市市で言いますと、問題になるような、例えば古くてちょっとした地震があると隣に影響を及ぼすとか衛生的にすごく臭いがするとか、ゴミがたまっていてゴミ屋敷になっているなどの、いわゆる特定空き家はないと調査しております。今後、特定空き家が発生したときにどのように対処していくのか、発生しないためにはどのようにしたら良いかを考えていくことを、新年度の事業として進めたいと思っております。

松本委員： 5番の子ども医療費について、金額ベースで68.1%増と目標値をはるかに上回る数値となっています。これまで本当は病院に行かないといけないような子どもたちが、今まで病院に行っていなかったという解釈につながるのでしょうか。

事務局： 先ほども触れましたように、当初は受診件数でKPIを設定していたのですが、受診金額にて比較をしたため68.1%増加となっております。現物給付に変更となると、全国平均で1.4倍になると聞いてはおりました。それを超えて1.68倍になったという状況です。現物給付になると本人が申請しようがしまいが、自動的に口座に戻ってきますので、申請の手間がなくなるということで、かなり増えたと思っております。

石川会長： ありがとうございます。大変多くのご意見をいただきました、議事平成27年度地方創生関係交付金を活用した事業の評価については、お認めいただいたというかたちで、よろしいでしょうか。

(意見・質問なし)

それではもし議事とは違う件でなにかあれば、挙手をお願いします。

千田委員： 野々市市はゴミの処理施設や火葬場がありません。ある意味そういったところに、対策をとらなくていい自治体だと思っております。ですから、戦略会議

の中の色々な施策を、他の市町村が行っているから行うではなくて、野々市市としての目玉はこれというものを推進して行ってほしい。そして他の委員もおっしゃっていましたが、アピールをしていただきたいと思います。

もう一つは、今の町内会ですが、見ておきますと、町内会費を払わない若い世代がいらっしやると。町内会を維持していくのが大変だと聞いております。

地域の中で生かしてもらっているという教育について、子どもの頃から小学校中学校と当然学んでほしい。またその親御さんへの教育の場を設けて、お子さんとともに学べるような環境づくりについて、ご検討のほどよろしくお願ひします。

石川会長： 町内会費を払わないと人がいらっしやって苦勞されていると。これは一種の地域の教育力だと思います。野々市市では子供の頃から、そのような教育がなされれば良いのかと思います。

事務局： 今ほどの件につきまして、ありがとうございます。ご要望に対しては、我々も痛いほど承知しております。先ほども話したように方法も検討していきたいと考えております。

これはコミュニティづくりという分野になろうかと思ひます。これという、対策は難しいですが、さまざまに検討が必要だと考えております。野々市市では市民協働という取り組みを進め、地域コミュニティを活性化させたいと考えているところでございます。

小川委員： 先ほど社会動態がマイナスになっているというお話がありましたが、新築住宅など住宅に関する助成が、他の自治体に比べると、野々市市はない、少ないのではないのでしょうか。そういったところを、少し手厚くしていけば社会動態のマイナスが防げるのではないのでしょうか。

また、先ほど本町のお話もありましたが、本町や区画整理が行われた新庄などの新陳代謝を促すといいますか、例えば空き家の取り壊し費用の助成などをしていくとうまい具合にサイクルが回っていくのかなという気がしています。以上です。

藤田委員： 町内会長の立場から、言わせていただきますと、まず石川郡の広域の関係で、ゴミ処理と斎場、これは過去から、そこに市の予算もあてがっていただい

ります。表から見ると野々市は何もないと思われませんが、地域の広域連携で過去から、色んな積もった行政区があります。行政区がだんだん無くなっていったという現実の中で、今もお金を出して維持しております。

それから町内会費ですが、町内会長さんが一年ごとに代わっているのが現実です。そうしますと町内会費を集めるために、顔を見る機会がある。町内会長が新たに引っ越ししてきた方にご挨拶をしていけば、嫌と言わないんですが、班長さんや係が集めていくと、業務として集めにいきますので、なかなか付き合いとして出しておくよという格好ではない。コミュニケーション不足と言いますか、ちょっとした田舎不足が野々市にあって、片方で都会、片方で田舎。この田舎をうまく使わなければ、野々市市は残れないと僕は思っています。

地盤的にもやっぱりこの辺りがいいですよ。地震でも震度計が揺れないんですよ。これは不思議な環境ですが、そういう地域です。野々市市に住んでみて、自信を持って生活できる場所だと思っております。

事務局： 先ほど2点ほどご質問いただきました件につきまして、住宅については、現在野々市市では、勤労者向けに住宅を取得した場合に、利子の補てんをする制度を実施しております。また、空き家対策については、来年度ですけれども、空き家の二次利用を含め、計画を策定していく予定としております。

石川会長： その他にございますでしょうか。

若干時間をいただきたいと思います。この前、糸魚川で大火事があり、150件くらいが焼けました。野々市市も本町付近では家が立て込んでいます。最近風が強いですね。このような状況下でもし火が出たとしたら、すごく炎上してしまうのではないかと思います。

糸魚川の市長が本学の1期生で米田といいまして、彼が私のところにきて1件だけ奇跡の家があると。写真をまわします。その家だけ焼けなかった、その大きな原因はガラス窓なんですね。防火対策をされているガラス窓です。網目が入ってしまっていて割れないんで、なかに火の粉が入ってこない。コストがかかるらしいんですが、設計者がこだわってそういうことをしていたと。非常に素晴らしいと思います。

本学の建築学科に増田という教授がおりまして、金沢市で延焼したらどうなるか研究をずっと続けております。その写真を彼に送りましたら、大変参考になりますと。ぜひとも野々市市の防火対策、延焼しない対策これを取り組んで

いただく必要があるのではないかと。ぜひともご検討賜りたいと思います。

事務局：ありがとうございます。野々市の創生の中で申し上げますと、いわゆるインフラの整備ですね、私どもが今進めております、土地区画整理事業ですとか、新しい図書館の整備、この辺りがそれにあたるかと思いますが、今ある場所の住みやすさが大切になってくるかと思えます。万が一の火災はないに越したことないと思えますが、十分に対処していく必要があると感じております。

担当課の方でとくに地震・火災に対して、こういった取り組みをしていくのか、計画も作っておりますので、そのような中で今のご意見をご参考にさせていただければと思います。

石川会長：開始から1時間50分となりました。そろそろ会議を終了したいと思います。それでは進行を事務局にお渡しいたします。

事務局：長時間にわたりまして、本当に貴重なご意見、たくさんのご意見を頂戴いたしまして、ありがとうございました。

今ほど皆様方から頂戴いたしましたご意見を、毎年ながら私ども野々市の創生に向けてまた、次年度以降取り組みを進めていきたいと思っております。本市の創生の取り組みもまだ始まったばかりでございます。皆様方それぞれのお取り組みもあろうかと思えます。そういったところで、市単独ではまかないきれない部分もございます。皆様と協力しながら野々市の創生について取り組んでまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

以上をもちまして、今年度の野々市市創生総合戦略推進会議を終わらせていただきます。

午前11時55分閉会